

追悼

千葉県テニス協会 会長 小野 敏郎

高見澤裕吉名誉会長が去る4月3日夜半に逝去されました。享年90歳。

昭和56年から平成4年まで副会長を務め、平成5年から平成22年まで会長、その後平成23年から名誉会長として千葉県テニス協会のために大変なご尽力をされました。昭和22年千葉県テニス協会の創立以来最も深く協会運営に関わり、協会の礎を確固たるものとした功績は一朝一夕に書き尽くせるものではありませんが、敢てここに追悼文を寄せることをお許しいただきたいと思います。

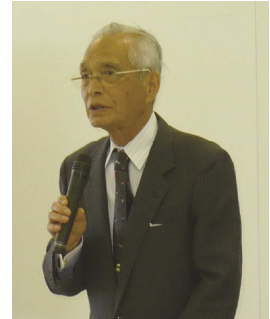
私が初めて高見澤会長と出会ったのは平成13年、新参の総務委員として常務理事会に出席し、議事録を書くようになった頃です。現在とは違い会長が常務理事会に出席するのは数回に一度、それでもご出席の折には歯に衣着せぬ発言で常務理事会をリードされていました。平成17年に私が理事長となってからは常務理事会では常に私の隣の席、そして思い出されるのは、優柔不断の私が会議の進行に戸惑っていると「早く、早く結論を出しましょう」と言って横からよくつつかれたものでした。竹を割ったようなさっぱりした性格がそのようにさせたのでしょうか。今となっては懐かしい思い出の一つです。

高見澤会長のもとで行った大きな事業にテニス協会60周年記念行事(平成19年度)と第65回国民体育大会(平成22年10月)が挙げられます。60周年記念として記念誌発行の代わりとしてDVDを制作することにしました。そしてその巻頭を飾ったのが高見澤会長のご挨拶動画です。何しろ初めてのこと、録画用カメラの向こう側に大書した原稿を置き、これを見ながら話をさせていただきました。珍しく緊張した様子で話をされていたのを今でもはっきりと覚えています。また、千葉国体の折には陣頭指揮をさせていただき、無事にこの大事業を終えることができました。一つ残念だったのはこの千葉国体で永年の懸案だったテニス競技総合優勝・天皇杯獲得をなし得なかったことです。

さて、本年1月20日、県体協の賀詞交歓会の席において、高見澤名誉会長は県体協70周年記念スポーツ功労者表彰を受けられました。そしてその席で久しぶりに話をすることができました。勿論平成27年和歌山国体において少年男女の活躍で見事天皇杯を獲得したことも話題となりましたが、本当に安堵した表情で話をされていたのが印象的でした。そしてこれが最後の会話の機会となろうとは、その時には知る由もありませんでした。

誰からも愛され本当に気さくで真面目、時に豪放その一方で繊細さも持ち合わせていた高見澤名誉会長を目にすることはもうできません。私たちは高見澤名誉会長が築いてくださったこのテニス協会を全員の力を合わせてもっともっと堅固で活気に満ち溢れた組織にしていきます。どうか天国で安らかに眠りください。

合掌



高見澤裕吉氏
2011年CTA総会にて